

第1章 発音とアクセント

第1部の発音の問題は基本的に4級と変わらず、発音とアクセントの問題は、強勢・弱勢のイントネーション、短音・長音、chの発音、そしてch, j, v, g, ie, eu/äuのゲルマン語由来の語と外来語の発音の違いの問題からなる。4級より難易度が高いところを、例を挙げて説明しよう。

本章の目次

- 1 アクセント
- 2 短音・長音
- 3 子音の異なる発音の問題
- 4 母音の異なる発音の問題
- 5 答えを強調して発音する語の問題

1 アクセント

ゲルマン語由来の語はアクセントが第1音節にあるという原則がある。ただし、接頭辞（前つづり）がついている場合は元の語にある。gestern（昨日）や gegenüber（反対）等はアクセントが第1音節にあるのに対し、gemütlich（快適）や Gebäude（建物）等は、元の語 Mut や bauen に接頭辞がつき、Mut-Gemüt-gemütlich、bauen-gebaut-Gebäude という風に変化してきた語である。そのため、アクセントが元の語の語幹に残っているから2節目にある。

さらに、非分離動詞と分離動詞の場合も強勢・弱勢のアクセントの場所が異なる。分離動詞の場合はアクセントが分離する接頭辞にある（aufstehen, ich stehe auf）が、非分離動詞の場合は元の動詞の語幹にある（verstehen, ich verstehe）。そのため、動詞が分離するかないかを覚える必要がある。

非分離接頭辞 be-, ent-, er-, ge-, hinter-, miss-, ver-, zer-

分離接頭辞 ab-, an-, auf-, aus-, bei-, dar-, ein-, los-, nach-, rück-, vor-, wieder-, zu-, zwischen-

2 短音・長音

この問題は4級とほぼ同じである。原則として、子音が1つだと前の母音が長く、2つ以上が連なると前の母音を短く発音するといえる。ただし、ch と schを除く。1つの音「ツヒ」、「シュ」という発音に代表されるchとschは、2つの子音として数えられない。また、新正書法以降はSchiffahrt（航海）= Schiff（船）+ Fahrt（走行）や、Fußballlehrer（サッカーの先生、コーチ）= Fußball + Lehrerの場合は、2つの子音にもう1つが加われば合計3つの子音になる。このような言葉は数が少なく、しかも、ドイツ語技能検定試験では、旧正書法と新正書法を併用しているので、出題の確率が低い。

なお、上記の子音が2つ=前母音が長い、子音が1つ=前母音が短いというルールは強勢のアクセントのある音節だけに当てはまる。

例▶

Oberschule b, l 子音が1つで、アクセントがあり O, u の発音が長い
Universität n, v は1つしかないが、アクセントが-ätにあるので U, i の発音が短い

Politik, Kritik の場合、l, t は1つしかないが、アクセントがないので、その前の o, i は短く発音される。アクセントが-ikにあるので、i だけは長く発音される。

強勢アクセントについて、ゲルマン語は「強・弱」が原則だが、3音節の言葉のアクセントは「弱・強・弱」になる。接頭辞のある場合は、接頭辞に強勢アクセントが置かれない。

Gefühl（感情）、beliebt（人気のある）の場合、1音節目の ge-, be-が元の動詞の fühlen, lieben につき、接頭辞にはアクセントがないので、そのあとに子音が1つしかないにもかかわらず、短く発音される。接頭辞ではないが、lebendig（生きている）も3音節なので、真ん中にアクセントが来るグループに入る。

接尾辞の-ei と -ur で終わる名詞と、-ieren で終わる動詞は、常に強勢アクセントが最後の音節に置かれる。

例▶ die Bäckerei **パン屋** das Abitur **高校卒業試験** fotografieren **写真を撮る**
また、-sch, -x の前の母音が常に短く発音される。

例▶ Tisch **机** Fisch **魚** Hexe **魔女** boxen **ボクシング**

-ch はより複雑であり、その前の u が長く、a, o は短く発音される。

例▶

Buch 本 Tuch 布 Geruch 匂い → 長く発音

Bach 小川 Krach 騒音 Loch 穴 doch やはり → 短く発音

3 子音の異なる発音の問題

j, v, g, ch の子音に関する問題である。j の場合、元々ドイツ語には d 「ジ」の発音は存在しないが、主に英語由来の外来語の場合は、やはり「ジ」と発音される。Jeans (ジーンズ), Jazz (ジャズ), Jeep (オフロード車) など。

また、同じ「ジ」の音はフランス語由来の語の場合に g で表すことが多い(細かい話をすれば、上の d よりはやや柔らかく、頭音の d はないので、だけ表記している)。この音は、フランス語の発音の法則に基づき a, u, o の前では g, e, i の前では (ジ) と発音される。

例▶ Orange オレンジ Genie 天才 Gelatine ゼラチン

Gelee ゼリー genieren 恥ずかしがる

Garage 車庫 (「ガラージュ」最初の Ga は「ガ」)

子音の異なる発音の問題では、言葉の由来を見極める能力が問われる。Ingenieur, Journalist もフランス語由来なので、ge- と j-を「ジ」と発音する。Genie はそのままのフランス語の発音だが、その形容詞の genial の発音はドイツ語化され、genial は「ゲ」になっている。

フランス語以外に、ギリシャ語由来の語も多少ある。Chaos (カオス、混乱), Charakter (性格、キャラクター), Chor (合唱団) は K 「カ」と「コ」と発音されるが、フランス語由来の語は「シュ」と発音される。

例▶ Chance チャンス Champagner シャンパン Chef 社長、ボス

Point▶ Chance は、ドイツ語では、日本語のような「チャ」ではなく「シャ」と発音される。また、Chef は「社長、上司、ボス」という意味で、料理人のトップを意味するシェフは Chefkoch という。

ラテン語由来の外来語の場合の ti の発音は、英語なら「シ」になるが、ドイツ語は ts (「ツ」、ドイツ語の z) と発音される。

例▶ Nation 国家「ナツィオーン」

Operation 手術、作戦「オペラツィオーン」

Station 駅、病棟「シュタツィオーン」

また、ギリシャ語由来の外来語の半母音 y はドイツ語の ü と同じ発音になる。Physik (物理学)、Psyche (精神) は最も代表的な例である。上記の単語の例は 3 級の語彙範囲に入っているので、試験に出る確率も高い。

st / sp の発音も出題される可能性がある。語頭にある場合の st / sp は「シュ」と発音するが、語中にある場合はそうではない。gestern (昨日)、am besten (最良)、Plastik (プラスチック) など。注意すべきは、接頭辞のある元の動詞・形容詞や複合名詞である。この場合は語中にあっても と発音される。

例▶ Aufstehen 起きる Frühstück 朝食 entspannt 落ち着いて

ここまでは 4 級と同じだが、3 級には「二格の s」が入っている複合名詞がさらに加わる。それを見極める能力が問われる。

例▶ Geburtstag 誕生日 Arbeitsplatz 職場

これらは st / sp に見えるが、実は Geburt + s + tag, Arbeit + s + platz からなる複合名詞なので、「シュ」のルールは当てはまらない。

4 母音の異なる発音の問題

また、フランス語由来の Ingenieur と Friseur の eu はフランス語の発音で「ø」という発音になっているので、ドイツ語もその発音を真似し、Ingeniör, Frisör※と発音する。

※現在は Frisör という書き方の方が普及しているが、Friseur と書くこともあるので注意。

このような単語の場合は、その由来、またはその発音と一緒に覚えるしかない。4 級との区別のために、上記の「-eur」の単語が発音の問題に出る確率は高い。

複合母音の発音に関する問題も3級にも出ることがある。これは即ち「ie」はゲルマン語由来の語の場合は「イー」、ラテン語等由来の語の場合は「イエ」、「eu / äü」はゲルマン語由来の語の場合は「オイ」、ラテン語等由来の語の場合は「エウ」と発音するという問題である。この問題の対象になる単語は、具体的に次のものがある。

ie=イエ：die Serie シリーズ die Ferien 休暇

die Linie 線 die Studie 調査

eu / äü=エウ：das Museum 博物館 das Jubiläum 周年、記念祭

このような言葉は数が少ないわりに、上記の単語を中心に出题される確率が高い。

上記の発音の変化はそれに続く子音の数や、強弱アクセントで十分に説明できるが、その他に特殊な発音の語の個別例もある。特に、vierzig と vielleicht の ie はこれに当てはまる。Vier と viel は ie なので、長く発音されるはずだが、vierzig と vielleicht のように-zig, -leicht が後ろにつけば、vie- が短く発音される。これは vielleicht の場合はアクセントが後ろに移ることで説明できるが、vierzig の場合は、ただ例外としか言いようがない。

Point▶ 3級は、4級と違い vierzig, vielleicht, lebendig が短長音の問題で出る確率が高い。

5 答えを強調して発音する語の問題

質問に対する答えの中で通常一番強調して発音される語を選ぶ問題は3級にもある。基本的には4級と同じ問題だが、質問と答えが4級より長くなっている。考え方としては、質問が何を問うているのかを考え、その語は強調して発音されるという構成の問題だが、必ずしも簡単ではない。例えば、質問に何らの間違っている情報があり、答えがそれを修正するパターンもある。

例▶ A : Möchtest Du Kaffee mit Milch und Zucker?

コーヒーにミルクが砂糖を入れますか?

B : Nur mit Milch, bitte!

ミルクだけでお願いします!

この場合は「ミルクと砂糖」に対して「ミルクだけ」と答えているので、通常 Milch を強調する。

問いに対して異なる語を答える場合は、その解答となる語が最も強調して発音される。

例▶ Beginnt der Film um sechs? Nein, er beginnt um sieben.

その映画は6時に始まる？ いいえ、7時から始まります

Hast Du heute Abend Zeit? Nein, aber morgen habe ich Zeit.

今晚、時間ある？ いいえ、でも明日なら時間あります